

道徳・規範意識の芽生えを意図した保育教材の開発¹⁾

櫻井国芳* ・ 池田孝博**
伊勢慎*** ・ 古橋啓介****

要旨 昨年度幼稚園教育要領の改訂作業が、文部科学省中央教育審議会幼児教育部会によって行われた。そこにおいては、「動機付け、粘り強さ、自制心といった非認知的能力を身に付けること」や「多様な運動経験等」が就学後の子どもたちの生活に大きな影響を与えるとして、重要視された。また、幼児教育において育みたい資質・能力が整理され、健康な心と体、自立心、協同性、道徳性・規範意識の芽生え等の10項目が示された。

運動経験や規範意識を育むことは、今後の保育・幼児教育において重要な教育課題として認識されることが予想される。

それらの解決に向けた一つの方策として、保育・幼児教育の教材提示に着目し、その具体的な開発について、ここに報告する。

キーワード 非認知的能力、道徳・規範意識、パネルシアター、紙芝居

1. 幼稚園教育要領の改訂と非認知的能力

文部科学省の諮問機関である中央教育審議会(幼児教育部会)²⁾は、2015年10月23日から開始された10回に渡る審議において、現行幼稚園教育要領等の成果と課題について、以下のよう

に示している。
「○ また、近年、国際的にも忍耐力や自己制御、自尊心といった社会情動的スキルやいわゆる非認知的能力といったものを幼児期に身に

付けることが、大人になってからの生活に大きな差を生じさせるという研究成果をはじめ、幼児期における語彙数、多様な運動経験などがその後の学力、運動能力に大きな影響を与えるという調査結果などから、幼児教育の重要性への認識が高まっている。」

乳児期を出発点とした、ヒトの生涯にわたる適応への様々な要因について、ここでは、非認知的能力(社会情動的スキル)に焦点を当て重視していることがわかる。

* 福岡県立大学人間社会学部・准教授
** 福岡県立大学人間社会学部・教授
*** 福岡県立大学人間社会学部・講師
**** 福岡県立大学附属研究所・特任教授

「非認知的能力」をめぐる研究と心理学—社会の発展・個人の発達・教育の可能性—と題された日本心理学会のシンポジウム³⁾の中で、話題提供を行った蒲谷慎介⁴⁾氏は、乳児の環境に応じた多様な学習の過程で見られる、周囲の環境への情緒的コミュニケーションや社会性の発揮がヒトの原初的な社会情動的スキルであることとらえ、これは後の対他的能力の礎となることが考えられると述べている。また、子どもの一生における社会情動的スキルの重要性については、子どもの能力の向上があらかじめ決まっているものではなく、幼児期から青年期にかけて触れる学習環境にかかっており、「この時期の脳の大きな可塑性、すなわち、学習し、変化し、発達する、非常に大きな脳の働き（中略）スキルはスキルを生む—スキルの早期の積み重ねは、さらなるスキルの発達の基礎となる⁵⁾」という指摘も見られる。

次に、今回の幼稚園教育要領の改訂において、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をどのようにとらえているのか、幼児教育部会での審議の結果を見てみたい。ここで、先述の非認知的能力が重視されていることを考慮しておく必要がある。

さらに、今回の改訂においては、子どもに対して身につけて欲しい能力—「何ができるようになるか」「何が身に付いたか」—が盛り込まれることになるということも付け加えておきたい。

—資質・能力の三つの柱を幼児教育の特質を踏まえ、より具体化して、整理したもの—

① 「知識・技能の基礎」（遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気づいたり、何が分かったり、何ができるようになるのか）

② 「思考力・判断力・表現力等の基礎」（遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか）

③ 「学びに向かう力・人間性等」（心情、意欲、態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか）

—資質・能力の三つの柱を踏まえつつ、明らかにした「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」—

① 健康な心と体

② 自立心

③ 協同性

④ 道徳性・規範意識の芽生え

⑤ 社会生活との関わり

⑥ 思考力の芽生え

⑦ 自然との関わり・生命尊重

⑧ 数量・図形、文字等への関心・感覚

⑨ 言葉による伝え合い

⑩ 豊かな感性と表現

①「知識・技能の基礎」、②「思考力・判断力・表現力等の基礎」、③「学びに向かう力・人間性等」は、遊びを通して総合的な指導を行う中で一体的に育んでいくことが重要であるとしているが、その過程や方法については、以前の幼稚園教育要領と重なる部分である。しかし、今回の改訂においては、近年の子どもの育ちを巡る環境の変化等を踏まえた見直しになるわけで、特に非認知的能力に関わる事項について、次のような記述⁶⁾が見られる。

「身近な大人との深い信頼関係に基づく関わりや安定した情緒の下で、例えば親しみや思いやりを持って様々な人と接したり、自分の気持ちを調整したり、くじけずに自分でやり抜くよ

うにしたり、前向きな見通しを持ったり、幼児が自分のよさや特徴に気付き、自信を持って行動したりするようにする。」

また、無藤隆⁷⁾氏は以前の幼稚園教育要領と保育所保育指針でも、非認知的能力の育成に向けた種はまかれており、例えば協同的な活動がその好例と指摘している⁸⁾。協同的活動（遊び）とは、単に子どもが仲良くしたり一緒に活動するだけではなく、共通の目的に向けて協力し合うことである。子ども自身が自己発揮するところから自ら行動できるようになり、そこにお互いのやってみてみたいことが交わり、共通の目的が生まれる。それに向けて、分担し、話し合い、工夫し合う中で育っていく過程のことである。それは必ずしもスムーズに展開されるものではなく、他の幼児との葛藤が生じる場面が多々あるであろう。そのような中で、相手の立場に立って考え、自らの気持ちを調整し、他の幼児の気持ちと折り合いをつけながら、目的に向かう姿勢が重要とされるのである。

以上のことから、「信頼関係」「思いやり」「自らの気持ちの調整」「自己」「相手の立場（考え）」「自己発揮」等が子どもの非認知的能力の育ちにおけるポイントとして挙げられるであろう。

そしてこれらは、本研究の一つの柱である、道徳性・規範意識の芽生え（前述④）と密接に繋がるものと考えている。「まわりの人を大切に思い、またものを大事にし、世の中の決まりを守るといことが基本となり（中略）中核には自分自身を大事にしてもらう経験があり、そこから自分を大切に思う気持ちが育つ（中略）それがほかの人も大事にしたいということに広がるなかで、（中略）したくないことをもしなければならぬし、がまんすべきこともあり、またほかの人に尽くす⁹⁾こと。集団や、それを構

成する他の幼児との関わりの中で、多くのつまづきや試行錯誤を経験し、それらを乗り越えることでより深い意識・心情が形成されるのである。

2. 道徳・規範意識の芽生えを意図した教材開発

ここでは、本研究で問題としている「道徳・規範意識」との関連性から判断し、「自己制御」「自らの気持ちの調整」「思いやりの心」「自己有用感」「自尊感情」をキーワードとして扱いたい。

さて、以上をどのように保育・幼児教育の教材に盛り込んだらよいであろうか。

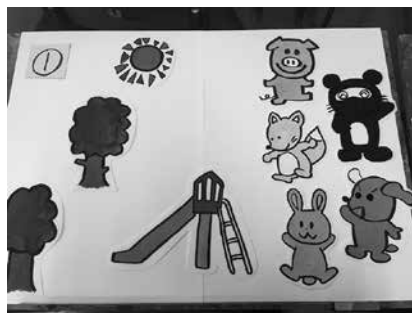
保育・幼児教育の現場で教材として普及しているパネルシアター¹⁰⁾・紙芝居¹¹⁾を例に挙げながら、具体的に提示していきたい。

(1) 『じゅんばんまもうね』

*パネルシアター（オリジナル）

作・絵：松延由希子、湯元麻由

登場人物：うさぎのうーちゃん、たぬきのたつくん、いぬのいっくん、きつねのねねちゃん、ぶたのびーくん
必要なパネル：おひさま、木、ブランコ、すべり台、鉄棒、うさぎ、たぬき、いぬ、きつね、ぶた



① パネル：すべり台、全員、木

あるお天気の良い日のことでした。みんなは公園で遊んでいます。うーちゃんがすべり台を見つけました。みんながすべり台を目指して走っていくと・・・

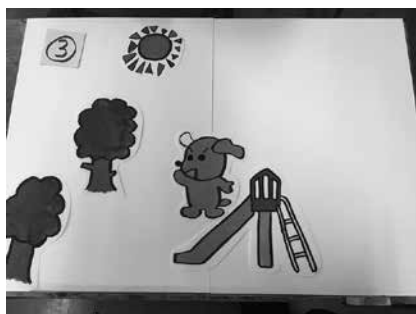


② パネル：いぬ以外全員、いぬ、すべり台、木

「ぼくがいちばんにすべるんだ～!!」
 いっくんがみんなを押しつけてすべり台にたどりつきました。

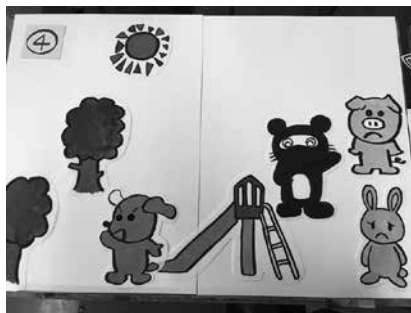
ねねちゃん「いっくんずるいよ。あたしもすべりたいのに」

たっくん「みんなでじゅんばんだよ」



③ パネル：いぬ、すべり台、木

「ぼくがいちばんなんだ～」いっくんは、勢いよくすべり台を滑って行きました。



④ パネル：たぬき、いぬ、うさぎ、ぶた、すべり台、木

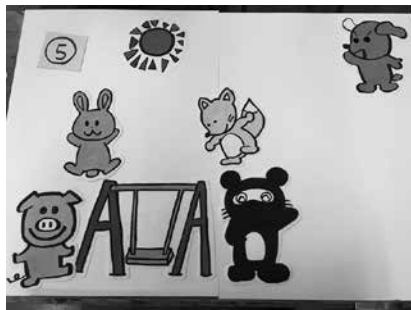
「つぎは、ぼくのばん」たっくんが滑ろうとすると、下からいっくんがすべり台を上ってきました。

いっくん「もういっかい、もういっかい」

ぴーくん「いまさっき、すべったでしょ。」

つぎはたっくんのばんだよ」

いっくん「まだ、ぼくのばんだもんね～」



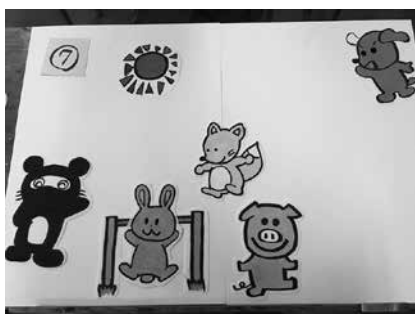
⑤ パネル：全員、ブランコ

すると、ねねちゃんと言いました。「みんなでブランコしましょ」

みんな「さんせーい」 いっくん「ぼくもブランコする!! いちばんがいい!!」



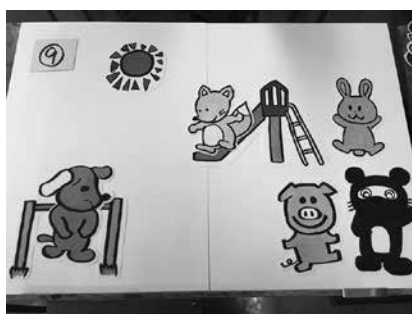
- ⑥ パネル：ブランコ、いぬ以外全員、いぬ
 いくくんは、ねねちゃんを抜かしてブラン
 コに乗りました。
 「わたしがのろうとしたのに・・・」ねね
 ちゃんは怒ってしまいました。
 みんな「なんでじゅんばんもらないの」
 「いくくんばかりずるいよ」
 いくくん「やだやだ、ぼくがあそんでるん
 だもんね～」
 みんなはブランコをあきらめて、鉄棒をす
 ることにしました。



- ⑦ パネル：鉄棒、全員
 うーちゃん「やった、てつぼうだ。じょう
 ずにできるかなあ」
 いくくん「いくくんがやってみるから、
 うーちゃんどいてよ」
 うーちゃん「いくくんさっきからずるばつ
 かり、もうあそばないもん」



- ⑧ パネル：すべり台、いぬ以外全員
 うーちゃんやみんなは、順番ぬかしする
 いくくに怒ってしまいました。怒ったみ
 んなは、すべり台をすることにしました。
 みんな「すべりだい、たのしいな～」 「じゅ
 んばんまもってあそぼう、あそぼう」



- ⑨ パネル：いぬ、鉄棒、すべり台、いぬ以外
 全員
 楽しそうに遊ぶみんなを見て、いくくんは
 悲しい気持ちになりました。
 いくくん「ぼくもみんなとあそびたい
 な・・・」



- ⑩ パネル：すべり台、いぬ以外全員、いぬ
 いくくんは、みんなのところに走って行き
 ました。「ぼくもなかま、いーれーて」
 みんな「えーいやだよ、いくくん、じゅん
 ばんもらないもん」
 怒ったみんなの姿を見て、いくくんは言
 いました。「さっきはじゅんばんぬかしして
 ごめんなさい。みんなとなかまよくあそぶ
 よ。じゅんばんまもるから、なかまにいれ
 て」
 みんな「こうえんは、みんなであそぶと
 ころだよ」「じゅんばんまもって、たのしく
 あそぼうね」「さあ、いくくんもいっしょ
 にあそぼう」
 いくくん「わーい、みんなありがとう」

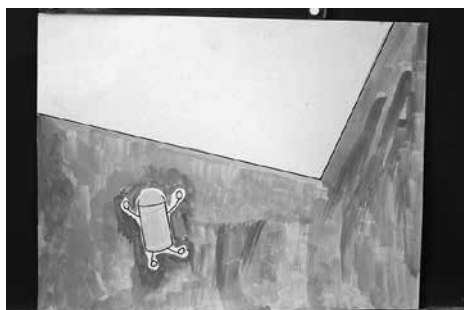
(2) 『くれよんのくろくん』¹²⁾

*紙芝居（絵本から転用）

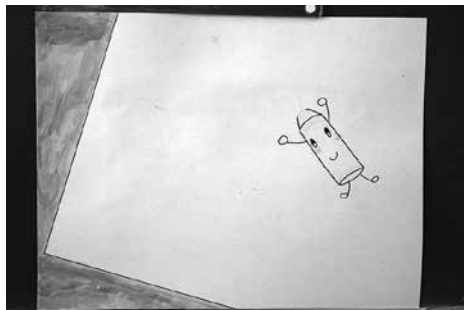
作・絵：なかやみわ¹³⁾



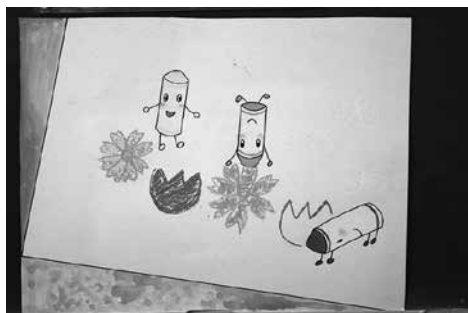
- ① しんびんのくれよんがありました。「たい
 くつで、いやになっちゃうなあ」
 あるひ、きいろくんがとびだした。「ずうっ
 と、しんびんのままなんてもういやだよ」
 そういつて、つくえのうえをトットコトツ
 トコはしっていくと……



- ② なんと、がようしをみつけました。
 「うわわ、おおきくて、まっしろい」 きい
 ろくんはおもわず……



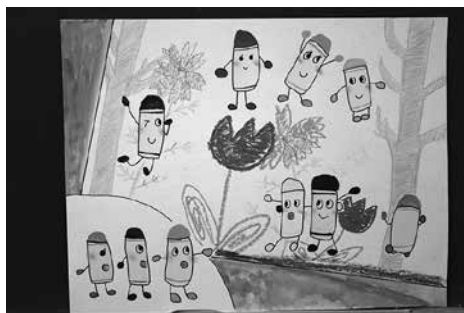
- ③ クルクルクルと、がようしにちょうをとば
 してみました。
 「なんてよいかきごち、さいこうだよ」
 きいろくんはおおよろこび。
 「そうだ。ちょうには、おはながひつよう
 だね」 そこで、きいろくんは……



- ④ あかさんと、ピンクちゃんをよんできました。

あかさんと、ピンクちゃんもおおきながようしをみると、おおよろこび。

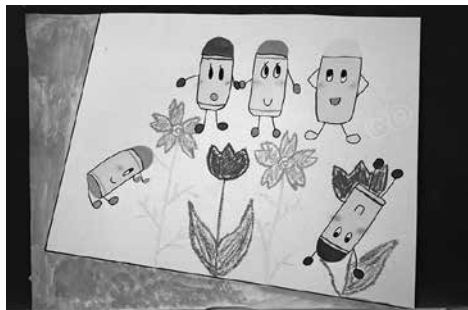
グルグルグルっと、あかさんがチューリップを、ツラツラツラっと、ピンクちゃんがコスモスをさかせました。「そうだわ。おはなには、はっぱがひつようよ」
そこでピンクちゃんは……。



- ⑥ ちゃいろくんと、おうどいろくんをよんできました。

ちゃいろくんとおうどいろくんもおおきながようしをみると、おおよろこび。

ビュルルルーンと、ちゃいろくんがじめんをつくりました。ゴーリゴリゴーと、おうどいろくんがきをうえました。
「そうだ、やっぱりあおぞらもないとね」
「それから、くももうかべなきゃ」



- ⑤ みどりくんときみどりさんをよんできました。

みどりくんときみどりさんもおおきながようしをみると、おおよろこび。

ビュッビュッビュッと、きみどりさんがコスモスにはっぱを、グリングリリーンと、みどりくんがチューリップにはっぱをつけました。「そうだ、おはなにはじめんもひつようだよ」「ついでにきもうえましようよ」そこできみどりさんは……



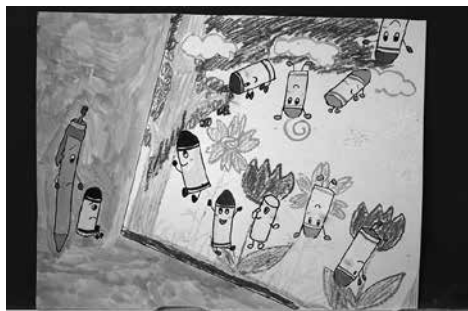
- ⑦ ちゃいろくんは、あおくんとみずいろくんをよんできました。

あおくんとみずいろくんもおおきながようしをみると、おおよろこび。

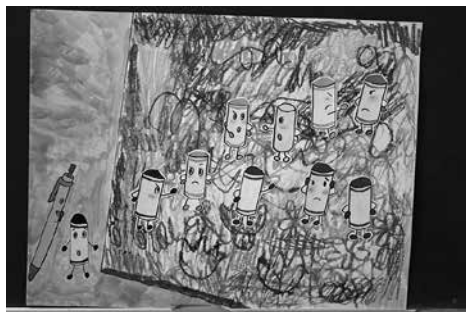
クリンクリンと、みずいろくんがふんわりくもを、ビュルルーンビュルルーンと、あおくんがあおぞらをつくりました。「ぼくらのえができてきたぞ」
くれよんたちは、はじめてのえにだいまんぞく。



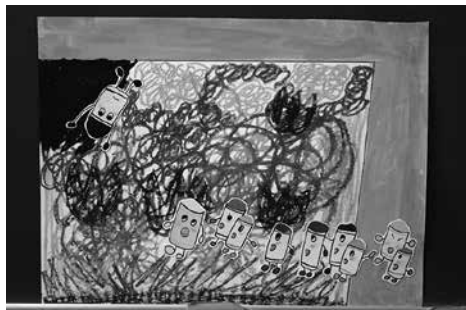
- ⑧ すると、くろくんがやってきていました。「ねえ、ぼくは、どこをかけばいいの？」
 みんなはいいました。「くろくんは、まにあってるよ」「きれいにかいたえをくろくされたら、たまらないよ・・・」みんなは、くろくんをなかまにいらてくれません。



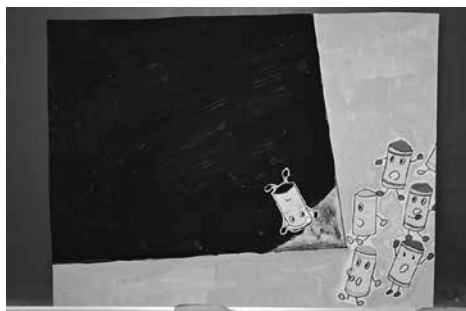
- ⑨ 「どんどんかこう」「もっともっと、かこう」
 みんなは、たのしそうにつづきをかきはじめました。
 「なんでぼくって、こんないろなんだろう・・・」
 くろくんがさびしそうにしていると、シャープペンのおにいさんがながさめてくれました。「げんきだせよ。くろくん」



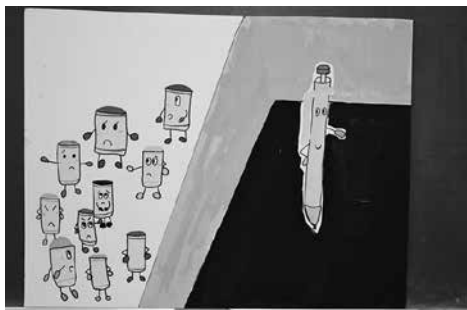
- ⑩ なんだか、くれよんたちがさわぎはじめました。
 「わたしのかいたうえに、かくのはやめてよ」「きみこそ、ぼくのうえにかくなよ」
 かくことにむちゅうになりすぎて、くれよんたちのえは、めちゃくちゃになってしまいました。そこで、シャープペンのおにいさんがこっそりいいました。
 それをきいたくろくんはびっくり。



- ⑪ いきなり、みんながかいたえのうえにビューっとあたまをすべらせました。



- ⑫ ビュッビュッビューっと、あたまのかたち
がかわるほど、まっくろにしてしまいま
した。

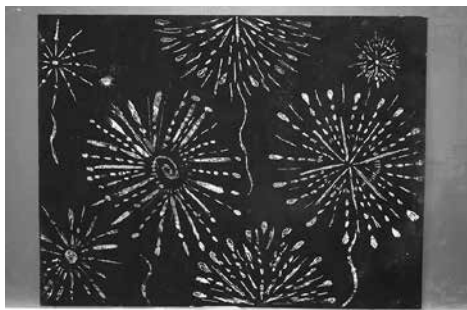


- ⑬ みんなは、びっくりしていいました。「く
ろくん、きみ、なんてことをしてくれるん
だ」

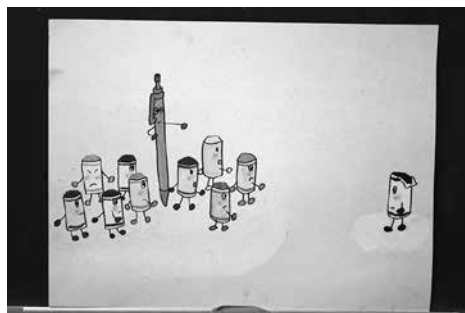
「ぼくらのえがまっくろになっちゃった
じゃないか」

すると、シャープペンのおにいさんがにっ
こりしていいました。「みんな、これをみ
てくれよ」

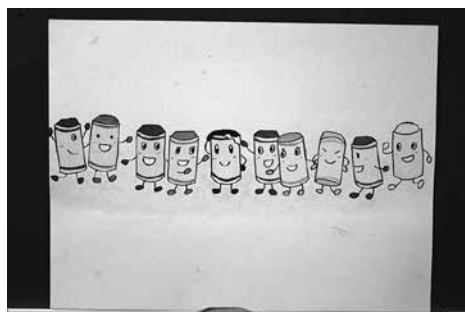
ツツツーっと、からだをすべらせ、くろく
んのかいたくろをけずっていくと……



- ⑭ あっというまに、おおきなはなびが、いく
つもよぞらにうかびました。
「ぼくらのえがはなびになった」



- ⑮ 「シャープペンのおにいさん、どうもあり
がとう」くれよんたちは、およろこび。
「おっと、おれいならくろくんについてく
れよ。はなびはくろくんがいたからできた
のさ」



- ⑯ くれよんくんちは、くろくんをかこんでい
いました。「くろくん、さっきはごめんよ」
「くろって、すごいね」

パネルシアター、紙芝居各保育・幼児教育の
教材において、そこで展開される物語の要素
に、先に挙げたキーワード「自己制御」「自ら
の気持ちの調整」「思いやりの心」（以上、ペー
プサート）「自己有用感」「自尊感情」（以上、
紙芝居）を照らし合わせてとらえてみた。

・『じゅんばんまもろうね』

集団生活において順番を守ることの大切さ、
守る必要がなぜあるのか、守るためには何が必
要かを教えてくれる作品。

子どもたちに親しみのある5匹の動物が登場する。保育所や幼稚園の園庭によく設置されているブランコ、すべり台、鉄棒で彼らが遊ぶ場面を中心に物語は展開される。順番を無視し、自分が一番初めに遊具で遊ぶことを主張するいぬが、物語の最後で友達皆で遊ぶことの大切さに気づき、素直に謝る。子どもたちにとって身近な出来事として、直接的に共感を呼ぶことが予測される。

「自己制御」「自らの気持ちを調整」することが、集団で仲良く遊ぶことにつながり、そこにおいて子ども一人ひとりが初めて「思いやりの心」を感じることができるのであろう。

・『くれよんのくろくん』

クレヨンたちを主人公に、助け合うこと、認め合うことの喜びを描いた作品。

真っ白な画用紙にくれよんのきいろくんがちょうちょを描いた。そして「ちょうにはお花が必要だね」と友達を連れて来る。それがきっかけとなって展開される物語。次に何色を連れて来るのか。1ページごとに色の数が増え、楽しい絵ができあがっていく。しかし、くろくんだけ出番がない。ところが、意外なところで大活躍することになった。

くろくん活躍の場面では、クレヨンの特色を生かした色遊びがでてくる。この紙芝居を楽しんだ後、子どもたちはクレヨンを握って同じことをしてみたがるのではないだろうか。

一見無意味と捉えられるものが、集団においては貴重な役割が存在するという「自己有用感」。それは自己・他者の存在を見つめ直すこと。自分ができること・できないことを認識し、それらを含めて自分自身を認め、肯定的にとらえる「自尊感情」にもつながっていくと言えよう。

3. まとめ

今回、保育・幼児教育において有効な保育方法として、パネルシアターと紙芝居を挙げ、

「自己制御」「自らの気持ちの調整」「思いやりの心」「自己有用感」「自尊感情」といったキーワードをどのように盛り込めるか、具体的に考えてみた。

ただし大元千種¹⁴⁾氏が指摘する¹⁵⁾ように、紙芝居の保育・幼児教育における機会や有効性が近年薄れてきている状況はあるであろう。行政による施策がなかなか保育・教育課程の内容に及んでいない現実を考えると、保育者の演者としてのスキル等が要求される意味においてハードルが高いが、それぞれの教材の特性をとらえ直した上で、保育・幼児教育の現場で積極的に活用していくことが必要ではないだろうか。

子どもたちの実態、つまり現状と課題—今回で言えば、道徳・規範意識—を認識し、それらを念頭に置きながら保育者自身が手作りし、子どもたちの前で演じ、提示する。そして、それに終始するのではなく、何かの活動の折に導入や振り返りの段階でさらに活用する。保育・幼児教育課程は一連のサイクルとしてとらえられているわけであるが、これら教材（今回取り上げたもの以外にペープサート、エプロンシアター等）の活用は、保育・幼児教育においてきわめて高い効果をもたらすものと期待できる。

注

- 1) 本研究は福岡県立大学平成28年度奨励交付金（附属研究所重点領域研究/地域教育課題に関する研究・代表 池田孝博）の交付を受けて行われた。

- 2) 委員名簿は下記に記載。
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/meibo/1363293.htm
- 3) 日本心理学会第79回大会 名古屋国際会議場、名古屋大学 2015年9月24日
- 4) 愛知淑徳大学 心理学部 講師
- 5) 「家庭、学校、地域社会における社会情動的スキルの育成」『ベネッセ・OECD共同研究レポート』ベネッセ教育総合研究所 2015年8月28日
- 6) 「幼児教育部会における審議の取りまとめ（報告）」文部科学省
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/057/sonota/1377007.htm
- 7) 白梅学園大学 子ども学部 教授
- 8) 「生涯の学びを支える「非認知的能力」をどう育てるか」『これからの幼児教育』ベネッセ教育総合研究所 2016年春
http://berd.benesse.jp/up_images/magazine/HY1-4_HY2-001.pdf
- 9) 『ここが変わった！NEW幼稚園教育要領NEW保育所保育指針ガイドブック』 p27 無藤隆・民秋言 フレーベル館 2008年5月1日
- 10) パネル布（毛ばだちの良い布）を貼ったボードを舞台に、Pペーパーという不織布で作った絵人形を貼ったり外したり、裏返したり、舞台のあちらこちらへ動かしながら演じる、児童文化。
- 11) 平絵の紙芝居は、1930年代の日本で誕生した。絵話、絵芝居と呼ばれることもある。台本に沿って描かれた数枚から十数枚の絵をその筋書きに沿ってそろえて重ね合わせ、演じ手は、順に見せながら、台詞等を語っていく。
- 12) 童心社 2001年10月
- 13) 埼玉県生まれ。女子美術短期大学造形科グラフィックデザイン教室卒業。
- 14) 筑紫女学園大学 人間科学部人間科学人間形成
- 専攻教授
- 15) 『保育現場における紙芝居の活用の課題－保育学生の紙芝居経験を手掛かりとして－』筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部紀要 8 2013 pp177-188